

第106号

発行所 菅公民館
発行者 白鳥久男
責任者 広報部
編集者 北信口一カル
印刷所

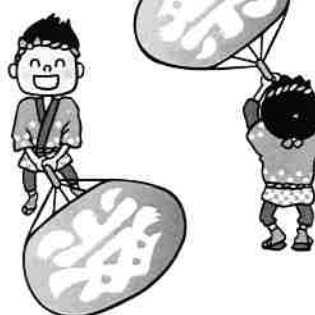
令和2年度氏子総代を経験して

氏子総代 中山 吉春

本年度は新型コロナウイルスに始まり、最後まで新型コロナウイルスに神経を使った一年でした。

まず2月15日に「雑社祭」の神事を行いました。菅には6柱の神があり、一同に集めて御嶽講の山本先達さんに祝詞をあげていただきました。

4月17日には、「祈年祭」。神事を片山宮司によって執り行いました。五穀豊穡を願う祭りです。



日には「阿夫利神社の祭礼」を、6日の日曜日には「不盡野神社の祭礼」を執り行いました。前夜祭の夜に雨がぱらつきましたが、西祭祀団の裁量で花火を打ち上げて頂き、コロナ禍の自粛ムードの中とはいえ、例祭に華を添えてもらい感謝致します。

11月17日「新嘗祭」。この神事は五穀豊穡の感謝をする神事です。令和2年は台風の上陸もなく、穏やかな秋を迎えることが出来ました。

12月、いよいよ暮れも押し詰まり、「除夜元旦祭」を迎えました。寒い中、大勢の崇敬者の皆様にお参り頂き感謝申し上げます。

令和3年度は新型コロナウイルスも退散し、盛大に秋の例祭ができる事を願っております。

最後に、日頃から崇敬者の皆様にご支援を頂戴していることに感謝申し上げます。御礼いたします。有り難うございました。

南部分団副団長になって

山ノ内町消防団南部分団副団長 中澤 秋友



日頃は、消防団活動に深いご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。令和2年度より南部分団副団長という大任を仰せつかりました。

消防団には12年前まで在籍していましたが、服装が法被から活動服に変わっていたり、式典やパレードなどにも簡素化され

リーダーなども簡素化されていて、昔と違っていろいろとありますが、戸惑うこともありません。皆さんに支えて頂きながら務めさせていただいています。

消防団長はじめ各正副分団長、そして消防署長と協力し、有事のために活動していくのはもちろんですが、これから消防団員がより活動しやすい体制を作るように尽力してまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

令和2年度 老松俳句会

炬燵にて字幕で観てる洋画かな
運動と思えば進む雪片付け
久し振り青空眺め日向ぼこ
外は雪炬燵柱にたよる日々
四つ割りの南瓜届きて冬至かな
眠る山堂々とあり獣道
朝焼に燃ゆる寒明け高社山
郷土力士勝たせて炬燵炭を継ぐ

釈 養
義 文
ひろ枝
はな子
節 子
十三吉
英 山
比呂史

炎に願いを込めて

どんど焼き

1月10日にどんど焼きが行われました。コロナ禍ということもあり、やぐらを組まずに積み上げたり、点火時間を早めたりと、各組ごとに工夫をしていたようです。



6・7・8組のどんど焼き



1組のどんど焼き



3組のどんど焼き



2組のどんど焼き

老松俳句会 代表

コロナに負けるな

コロナ禍でも感染対策をしっかり行い、積極的に活動している方々がいます。全国的に自粛ムードで、生活が制約されていますが、その中でも、スポーツや趣味で日々の生活に活力を取り戻したいですね。

野球がんばってます

望月 優希

(父・和也/母・仁美)



僕は中野シニアと言う硬式野球のクラブチームに入っています。昨年の秋の信越大会で優勝することができ、今年の3月に開催される全国大会に出場する予定です。僕はピッチャーをやっています。全国の色々な



なバッターと対戦して、どれだけ通用できるか楽しみです。チームの目標は「全国制覇」なので、それに向けてチーム30人のみんなと力を合わせてがんばりたいです。



楽しいスキー一部

養田もえ

(父・武/母・花実)



養田もえさん(父・武/母・花実)

私は3年生からスキー部に入り、スキーを始めました。3年生のころはなかなか練習についていけず、大会でも結果を残すことが出来ませんでした。高学年になってからは、練習の時に目標を決めるようになりました。スキー部で一番楽しかったことは、大会の泊まりです。みんなでご飯を食べたり、寝たりすることが楽しかったです。6年生になった今年はスキー部の部長になりました。



望月寧来さん(父・和也/母・仁美)



池田愛菜さん(父・裕一/母・弘美)

みんなをまとめた。低学年のお世話をするのが大変でした。練習が厳しくてやめたいと思ったこともあったけれど、一生懸命がんばり、楽しいスキー部でした。

うたい 弥生会謡の会について

弥生会会長 中山 悦雄



弥生会は平成33年3月に始めて今年で29年になります。初めは、宴席の際の盃事の肴にと思い始めました。お着だけのもりが、少し覚えたからと練習を続け、こんなにも長く続いています。現在は5名の会員で運営しています。先生は、観世流能楽師の兒玉敏一さん(佐野)です。兒玉さんは指導当りです。観世流の名譽師範でしたが、現在は観世流の能楽師になっています。能楽師になってからは、東京の観世能楽堂をはじめ各地の能に出演しています。兒玉さんが指導する会は、観世流家元から「玉謡会」という名前を頂き、我々の会も「玉謡会菅支部 弥生会」と

いう名で活動しています。

玉謡会は現在3支部あり、お互いに交流しています。毎年恒例の行事として、新年には新年発表会を、秋には県外に奉納旅行を行っています。昨年は新型コロナウイルス感染拡大のため中止になりましたが、今年も予定通り活動できる日を心待ちにしています。

最後に、弥生会活動資金として、公民館から毎年補助金を頂いていることをこの書面に御礼申し上げます。

(注) 「能」は、日本の伝統芸能である「能楽」の一分野。「謡」は能の舞に添えられる歌謡です。

「館報みさお」

中央公民館長賞受賞

山ノ内町中央公民館は前年度、町内27公民館が発行した館報の出来栄を対象に「親しみやすさ」「読みやすさ」「編集内容に努力しているか」などを基準に審査。この結果、当館が発行する「みさお」が、館報コンクールにおける最高賞である中央公民館長賞に選出されました。これもひとえに区民の皆様の公民館活動へのご理解とご協力のたまものと大変感謝いたしております。

これからもより一層、楽しく親しみやすい館報作成ができるよう努めますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

